

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 10 月 21 日現在

機関番号：17201

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25370632

研究課題名(和文) 英語を英語で教えることのできる教員養成カリキュラムの構築

研究課題名(英文) Curriculum for English Teachers who can teach English in English

研究代表者

早瀬 博範 (HAYASE, HIRONORI)

佐賀大学・文化教育学部・教授

研究者番号：70173052

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,000,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は現行の学習指導要領が求める「英語を英語で」教えることのできる高校教員の養成カリキュラムの構築を目的としている。具体的には、1)英語力の養成 2)教材開発 3)Teaching Planの作成方法 4)コミュニケーション主体の評価方法、という4つの技能に重点を置いたものを目指した。本研究を踏まえ「英語科教育法」「小学校英語教育活動」などのカリキュラムの中に、上記の4つの観点に関して本研究で得られた成果を落とし込むことができた。

研究成果の概要(英文)：Through this project, practical English education classes at Saga University are established to cultivate future English teachers who can teach English in English: their curriculum includes the training for English teaching skills, the development of teaching materials, making of teaching plans, and evaluation in terms of communication abilities.

研究分野：英語教育

キーワード：英語は英語で 教員養成 コミュニケーション能力 小学校英語

1. 研究開始当初の背景

平成25年度から、新学習指導要領の外国語「英語は英語で指導することを基本とする」に従い、高等学校での英語教育は一年生の授業から英語で授業されることとなった。これは日本の英語教育 歴史上、画期的な改革となる。そのために文部科学省主導で4年前から拠点校を中心に、様々な活動や講習会、セミナー等が行われているが、試行錯誤というのが現状である。さらに、大学の教員養成課程のカリキュラムを見た場合、上記の学習指導要領に趣旨を反映したものになっておらず、現場との教員養成カリキュラムの乖離があり、卒業していく学生が、将来教壇に立ち、英語を英語で授業するには大いに不安があった。現職教員への「英語は英語で授業」をすることへの意識改革、指導技術向上は徒然必要なことであるが、これから英語教師となっていく学生の指導も同時に重要である。従って、英語教員養成カリキュラムの中身の改革と実践力ある実施である。

2. 研究の目的

本研究は、現行の学習指導要領が求める「英語を英語で」教えることのできる高校教員の養成カリキュラムの構築を目的としている。具体的には、1)英語力の養成 2)教材開発 3)Teaching Planの作成方法 4)コミュニケーション主体の評価方法、という4つの技能に重点を置いたものを目指した。

3. 研究の方法

本研究の具体的な目的は、現在の「英語科教育法 III」の改善強化である。本研究は、平成25年度から平成27年度までの3カ年でおこなう。各年度の目的と計画は、以下の通りである。研究を進めるにあたっては、本学の英語教育の教員、高校の教員が主であるが、理論的かつ実践的に進んでおり、本学教員の英語訓練と場として既に活用している、アメリカのミシガン大学言語センター、本学協定校である米国スリパリーロック大学、そして、

オーストラリアのモナッシュ大学語学センターからもアドバイスを得ながら進める。

4. 研究成果

以下の研究成果をもとに、本学の教員養成カリキュラムのなかに、以下の観点を落とし込み、「英語科教育法III」や「小学校英語教育実践」を構築した。

本研究によって、学生たちに身につけさせる技能は以下の4つを主なものとする。

1) 指導者としての英語力の養成

単に高い英語力を持っていることが、いい英語での授業ができることにはならない。今回の新指導要領の主たる目的は、「学生たちに、英語を使わせ」その結果、「教室をコミュニケーションの場」とすることである。つまり、学生に英語を使わせ、教室全体をインタラクティブは環境とするために、教師はどのような英語を使えばいいのかが重要な教師の能力となる。教室での効果的かつ、インタラクティブを高めるための英語表現や振り舞いを、英語のネイティブインストラクターによって身につけさせるためのカリキュラムを導入する。

併せて、英語力そのものを鍛えるためのTOEIC, TOEFLの推進と講座の開設、Reading マラソンプロジェクトの開発実施、また米国スリパリーロック大学でのミニ留学研修、さらにはe-Learningをつかった英語学習環境の整備も合わせて行った。

2) 教材開発能力の養成

「英語で授業」となって、教師の力量が最も問われるようになるのが、授業で用いるコミュニケーション活動のための「教材」である。教科書を土台としながらも、授業のインタラクティブを高め、コミュニケーション能力

を育成するには、実践的なコミュニケーション活動が必要である。その際、効果的な教材づくりが鍵となる。具体的に、様々な指導法に基づいて、教科書の分析、インタラクションをためることのできる教材を作成する方法を教える実践的授業を導入する。

3) 英語による授業の組み立て方と Teaching Plan の書き方

「英語による授業」で求められているのは、その使用される言語の変更というよりも、「指導スタイル」の変更である。「訳読や文法」中心の「講義的授業」から「活動主体のインタラクティブな授業」への変換が求められている。

とりわけ、「本時の目標」の具体化と明確化、目標設定の具体化を強化した。

4) 評価手段の習得

たとえ、現在の高校の授業スタイルが変わり、「英語で授業」が展開されるようになっても、その評価方法がければ、意味がない。コミュニケーションという観点からの評価に変わらない。これまでの、ペーパーテストを主とした評価方法から、コミュニケーションを主体とした評価方法を構築し、学生に教授で享受できるようにする。具体的には、Can-Do Statementによる評価を作る。そのための参考として、Common European Framework of Reference for Languages を土台にしながら、日本というコンテキストにあったものを構築する。その際次の点を留意する。1) 何をどれだけでできことを目指すかを具体的に明示する。2) 日本というコンテキストにあったものとする。それでもグローバルな視点は維持する。理論的には、Canale & Swain, Backman & Palmeaer, さらにはGOLM運動などの評価方法を土台に研究を進めた。

また、付随的なことであるが、上記の成果を踏まえ、本学の英語入試問題も「学習指導要領」に則った問題に改変を行い、高校教育への指針とした。これによって、本学を目指す学生への英語力の方向性を示すことにつながった。

5. 主な発表論文等 (研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 9 件)

1. 早瀬博範(2016)「英語教育における「4技能の統合」をめざして—”skill-oriented”から”content-oriented”へ—」『佐賀大学教育実践研究』第33号 119-130. 査読無し。

2. 早瀬博範(2016)「佐賀大学における TOEIC の全学的導入による英語教育体制の強化—「自律した学習者」の養成をめざして—」『佐賀大学全学教育機構紀要』第4号 99-112. 査読無し。

3. 早瀬博範(2016)「4技能の『総合的指導』と『統合的指導』について」*Eureka* 50, 2-6. 依頼投稿。

4. 早瀬博範, 穂屋下茂(2015)「佐賀大学の英語教育充実に向けた ICT を活用した学習環境の整備の研究」『佐賀大学全学教育機構紀要』第3号 31-42. 査読無し。

5. 早瀬博範(2015)「グローバル化に対応した英語教育改革実施計画—その方向性と課題—」*Eureka* 49, 2-4. 依頼投稿。

6. 早瀬博範(2014)「Free Voluntary Reading」*Eureka* 48, 2-6. 依頼投稿。

7. 早瀬博範(2014)「『英語は、英語で授業』に向けて—理論的検証と課題—」『佐賀大学教育実践研究』第31号 109-120. 査読無し。

8. 早瀬博範(2013)「佐賀大学における英語教育での LMS 活用」『佐賀大学全学教育機構紀要』第1号 3-12. 査読無し。

9. 早瀬博範(2013)「佐賀大生を留学させる TOEFL プロジェクト」の成果と検証」『佐賀大学全学教育機構紀要』第1号 43-56. 査

読無し。

研究者番号：

〔学会発表〕(計 4 件)

1. ポスターセッション「e-Learning による英語力強化教育システムの構築」大学eラーニング協議会(2016) (信州大学)
2. 課題フォーラム「佐賀の英語教育-小中高の接続を考える」第40回全国教育学会(2014) (徳島大学)
3. シンポジウム「佐賀の英語教育」第42回九州英語教育学会(2013) (佐賀大学)
4. フォーラム「グローバル人材育成のための英語教育」大学eラーニング協議会」(2014) (佐賀大学)

〔図書〕(計 件)

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1)研究代表者

早瀬 博範 (HAYASE, Hironori) (佐賀大学
文化教育学部・教授)

研究者番号：70173052

(2)研究分担者

()

研究者番号：

(3)連携研究者

()